

共済福祉社会だより

社会福祉法人 共済福祉社会 発行責任者 石津 博士
住所 静岡県田方郡函南町平井717-2 TEL 055(978)4100
ホームページ <http://kyosaifukushikai.jp/>
e-mail:info@kyosaifukushikai.jp



第二一回評議委員会・第一一九回理事会を開催 平成二三年度事業計画案等が承認される



石津理事長あいさつ

一、平成二三年度の着地見込みの第二次補正予算は、修繕等の積立金を一〇〇万円増額した七一〇〇万円、収支差額二四〇〇万円程度の確保ができる見通しです。

二、平成二三年度の経営方針で、日常業務以外で特に意識している三つは、①来年四月施行をめざした「介護保険法の一部改正法案」と介護報酬改定の動向把握です。事業運営や人材育成への影響分析と対処策など検討が必要と考えています。②地域のニーズを活かした函南町社会福祉協議会が策定された「地域福祉活動計画」との連携を進めていくこととします。③建物・設備診断を踏まえた中長期修

繕計画策定と当面する総合福祉センターの具体的修繕計画を策定し、準備に着手します。

三、収支計画は、収入面で二二年度を上回る稼働率を設定し、収入確保に最大限努めますが、新規採用や委託費等の経費増加により、積立金六〇〇〇万円を見込んだ最終収益は大変厳しい計画となっています。

平成二三年度事業計画

一、事業毎の収益確保に、入所施設のベッド稼働率およびサービス利用目標を達成し収入の確保と効率的な経費支出で目標の収支差を確保する。また、環境変化に迅速に対応するために、月次・四半期毎の事業結果を分析し事業運営に反映する。加えて、指導的職員層を対象に、事業結果の分析を行うなど、マネジメントに関わる研修を強化する。

二、平成二五年度に全ての社会福祉法人に適用される新会計基準に対応するために、

情報収集に努め、上部団体の指導に基づき万全な体制を整える。

三、伊豆総合福祉センター等の建物劣化診断の結果に基づき、総合センターの大改修に向けて効果的な修繕・改修年度計画を策定し、今後の事業運営に反映する。

四、障害者自立支援法に基づき、伊豆リハビリテーションセンターの新体系移行に万全な体制を整え、平成二四年四月一日に完全移行(自立訓練・生活介護・施設入所支援)する。

五、地域の皆様に、当会が有する資源(設備・人材)の活用をPRし、小・中学校および地域ボランティアサークル等とのつながりを強固にする。

六、二二年度に受審した(伊豆白寿園、伊豆ライフケアホーム、伊豆リハビリテーションセンター)福祉サービス第三者評価結果を踏まえ、サービス品質への反映・仕事の見直し・ウィークポイントの改善を進め、サービス品質の向上を図る。

七、職員の意識および意向調査を三年毎に実施し、職員が持っている、資格取得・職

場異動・業務独占職への異動希望等、それらに必要な研修機会の確保や法人として必要な人材の確保に活かしていく。また、職員との面談を通じて、「コミュニケーション」を高める。以上のことを踏まえ、職員一丸となって事業を進めていきます。

第二二〇回理事会の開催
四月一日に開催した理事会で石津理事長が再選されました。

平成23年度資金収支予算書【事業収支】

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
介護保険収入	512,180	人件費	687,009
自立支援費等収入	358,743	事務費	157,652
補助事業等収入	18,863	事業費	137,281
利用料収入	155,868	小計	981,942
措置費収入	300	収支差	67,284
経常経費補助金収入	3,272		
計	1,049,226	計	1,049,226

高齢者福祉部

あらためて知る
日本人のこころ

高齢者福祉部長

宮本良美



桜も満開となり、新たな年度が始まりました。毎年繰り返される自然の営みにただただ感動するのみです。

今年も新たな職員を仲間に加え、人が羨む福祉介護現場の確立を目指し、地域福祉や施設福祉をより一層充実したものとするために気持ちを新たにいたしました。

過日発生した東日本大震災による被災地の悲惨な状況を目の当たりにし、私の心は闇となりつつありましたが、一方で闇の中に確かな光を見出しました。それは、被災者同士が互いに助け合い、励まし

合っている姿です。この深い悲しみの中で、日本人が取り乱すことなく助け合い、秩序ある対応を示しているからです。

未曾有の自然災害に直面した日本人の行動が「日本人の秩序ある冷静な対応」として全世界から称えられています。あらためて日本人の「心」の豊かさを知りました。

日本人が生まれながらにして持ち合わせている「足るを知る」は、人生を幸せに送るためには必要不可欠でないかと思えます。足るを知る者は、物に満たされず貧しくても、心が豊かであると言われています。モノに満たされるよりも、もっと大事なことが人生にはたくさん存在すると思えます。物欲を満たすよりも、心が安らぐ家庭や友人に囲まれて生活するほうが、よほど幸せだと思います。

高度経済成長期以前の日本人は、お互いが支え合って地域社会を維持してきました。家族や地域社会の絆の大切さを再認識し、被災地の方々と心を一にして自分達のできることを日々取り組んでいきたいと思えます。

自分なりの生き方とは？

特別養護老人ホーム伊豆白寿園

介護係長 青木章一

先日発生した東日本大震災は、日本中を震撼させる歴史的な出来ごとであり、今なお多くの方が復興に向けて奮闘しています。私たちは改めて「生き方」や「生活」について考えさせられました。特別養護老人ホームは、自分らしく生活する場です。自分らしく生きるうえで、「衣(医)」「食」「住」は欠かせませんが、それだけでは不十分です。「他者から認められたい」「仲間を作りたい」との欲求が満たされ、自分らしさが見えてきます。利用者の皆さんが自分らしさを見出して生活出来るよう私たち職員は、その意味を考えていきたいと思えます。

サービス内容の見直しについて

かなみ老人デイサービス

センター長 佐久間祐子

平成一七年に集団活動から個別ケアに体制を変え六年がたちました。現在のサービス

内容を「自立支援」の視点から見直し、体操・入浴・食事趣味活動等のすべてのサービス内容を、利用者自らが選べる一日のスケジュールを決めていただくという「選択制サービス」の導入を計画しています。デイサービスの利用日が待ち遠しいと感じていただけるように、利用者一人ひとりのニーズに応えたサービスの工夫を職員が一丸となり取り組んでいきたいと思えます。

ヘルパーの仕事

ほへみ訪問介護センター

センター長 島田ノリ子

足元しか見えない道を手探りで進むうち、霧が晴れるように少しずつ見え始め、二年が経った頃には、足取りもだいぶ自信がついてきました。この十年で延べ千余名の利用者に出会う事ができ幸せに思っています。時には、厳しい中にも心温まる言葉をかけていただき嬉しく励みに感じています。この教えと喜びを独り占めにせず、人の痛みを自分の痛みと受け止め、利用者の為に汗をかける未来を担う人材の育成に努めていきます。

新任職員を迎えて

ほへみ居宅介護支援事業所

センター長 大沼信子

桜のつぼみも膨らみ、春のぬくもりを東日本大震災の被災者の方々にも、届けて欲しいと心から祈りつつ、新年度がスタート致しました。

今年度は、新任の介護支援専門員二名の異動があり、当事業所も新たなスタートを切る事となりました。

私たちは「皆さまに、住み慣れた地域で安心して生活を送って頂けるように」と、居宅サービス計画を作成させて頂いております。

新任の職員を迎え、気持ちも新たに笑顔で頑張っていきたいと思えますので、よろしくお願いいたします。



障害者福祉部

新年度を迎えて

障害者福祉部長

矢野 秀男



今年の年度開始は例年と異なるスタートとなりました。三月一日午後には発生した東日本大震災により、多くの被災者の方々が苦労の日々を送っておられます。地震発生後の各地の状況が、信じがたい衝撃映像として日本全体に流れました。テレビでは公共広告により啓発活動を行っています。ACジャパンには抗議の電話が殺到したようです。「しつこい」「不快感がある」というクレームが集中し、国の管理下にないにもかかわ

らず勘違いの抗議があったようです。受け止め方の違いや、情報の遅さなどにより起こったことかもしれません。今、私たちが出来ることは、被災地・被災者の方々が一日も早い復興となるよう支援協力し合うことなのでしょう。利用者の皆さんには互いを思いあいの共生していくことが大切なものとして、節電や入浴回数調整等、色々な面でのご協力をお願いしています。日頃からの危機管理の大切さが浮き彫りになりましたが、今回の経験を活かし、いざとなったらどのように行動し対処するかなど危機管理の整備に努めてまいります。

今年度、障害者福祉部の各事業では、利用される方々へのより良い支援となるよう●伊豆リハビリテーションセンターは平成二四年四月一日、新体系への円滑な移行●伊豆ライフケアホームでは利用者への安心・安全な生活の提供●伊豆ふれあいデイサービスセンターでは、早期に土曜日営業を実施し、サービスの拡充と一層の質の向上を目指します。

ハンドトリートメント でリラククス

伊豆リハビリテーションセンター
ケアワーカー 加藤 静江

ストレスケアについての講習に参加し、アロマセラピーを学びました。アロマセラピーは複雑で奥深いもので簡単に会得できないことを知りましたが、ハンドトリートメントは手軽にでき、癒しやツボを刺激すると体に良いことを学びました。



早速、職員間で伝達講習し、現在では月に一回、利用者に提供しています。ほのかな香りと癒しの音楽につつまれ、オイルをたつぷり手に取り指先から腕まで優しくトリートメント。皆リラククスして笑

顔になり、会話も弾み、心地よいひとときを過ごしています。

伊豆ライフケアホーム紹介

伊豆ライフケアホーム
サービス管理責任者 松原 陽子

伊豆ライフケアホーム(以下ライフ)は、平成九年に開所した重度の身体障害者の方が暮らしている施設です。現在五十一名いらっしゃいます。平均年齢は約五九歳。一番若い方は二〇歳です。身体障害者となった原因は皆さんそれぞれ違います。産まれつき障害のある方、交通事故により手足が不自由な方、脳梗塞により半身麻痺の方、難病で徐々に障害が現れてきた方など様々です。二十四時間介護の必要な方が殆どなので、職員は三五日交代制で勤務しています。

それでは、ライフに入所しているNさんを紹介したいと思います。Nさんが自分で動かせるのは左手二〇センチ程…。ベッドに横になるのも、着替えや入浴・食事も全て職員による支援が必要です。Nさんが楽

しみにしているのは、わずかに動く左手で操作する電動車椅子に乗り、窓際の陽だまりで日向ぼっこをすること。体力的に電動車椅子で過ごせる時間は一日に四時間程ですが、春の晴れた日は、車椅子に乗る前から二〇二〇しています。



入所型の施設なので、利用されている方にとってライフは自分の家です。テレビを見たり絵を描いたり、インターネットを楽しむ方もいらっしゃいます。それぞれ思い思いの生活が送れるように、職員も日々考えながら支援しています。お花見・納涼の夕・運動会・文化祭・豆まき等、季節に応じた行事も行っています。是非皆さんもライフに遊びに来て下さい！
ご連絡お待ちしております。

平成二三年度
事業開始式

四月一日、入社式において石津理事長より幹部職員立会いの下、新規採用職員六名に対し辞令が交付されました。それぞれ希望を胸に緊張した面持ちで辞令を受け取りました。



引き続き、事業開始式に臨み、石津理事長より平成二三年度の事業方針が示されました。これを受け職員代表の決意表明、新入職員の紹介が行われました。

決意表明

今年三月一日に東日本大震災が発生し、今尚日本全体が復旧に向けて奮闘しているところであります。その中で、「人と人の助け合い」「絆」の大切さを改めて国民は再認識すると共に世界各国からも高い評価を得ております。

私たちは、福祉に携わる人間として「他者への思いやり」という誠心を、仕事を通じて育んでいくことが重要です。

当法人の平成二三年度事業方針は、翌年度に控えている第三次介護保険制度の改正について、その動向把握に努めつつ、安定した経営基盤を維持し、利用者のニーズに 대응していく豊かなサービスマニユアの検討とサービス品質の向上、及び情報開示による高い透明性のものと、地域福祉の一翼を担う取り組みを進めていくこととなっております。



私たちは、この方針の実現に向けて最大限努めると同時に、利用者の皆様との「絆」をより一層大切にしていくことをここに決意いたします。
平成二三年度四月一日
高齢者福祉部
ケアワーカー
内田 清 敬

ご寄附ありがとうございました

【寄附金】

株式会社テルウェル
・ライフアシスト 様 (写真)

【寄贈品】

東静岡ヤクルト販売株式会社 様



平成二三年度、静岡県福祉サービス第三者評価を受審した「伊豆白寿園」「伊豆リハビリテーションセンター」「伊豆ライフケアホーム」三施設の結果が、静岡県ホームページに掲載されています。

被災地域の皆様に
謹んでお見舞い申し上げます

この度の東日本大震災にて被災された皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。

被災地の皆様におかれましては、未だ厳しい状況が続いておりますが、一日も早く復興されますことを心からお祈り申し上げます。

「苦情」受付窓口



- ◆ 伊豆白寿園 055-978-7511 (田中 博 恵)
- ◆ かなみ老人デイサービス 055-978-0555 (佐久間 祐子)
- ◆ ほほえみ訪問介護センター 055-978-4126 (島田ノリ子)
- ◆ ほほえみ居宅介護支援事業所 055-978-0588 (大沼 信子)
- ◆ 伊豆リハビリテーションセンター 055-978-5111 (長谷川美恵子)
- ◆ 伊豆ライフケアホーム 055-978-0811 (木村 典子)
- ◆ 伊豆ふれあいデイサービスセンター 055-978-1888 (渋川 睦子)
- ◆ リベルテ 055-978-4187 (竹村 聖一郎)